

# 透析療法領域における女性腎臓医のキャリア形成 —順天堂大学腎臓内科の場合—

## 専門医教育のミッション

腎臓病領域は、他の学会を先駆けて女性医師に限らず腎臓学を専門とする医師に対しての姿勢を明確に示し、活発な活動を行っています。この活動のビジョンとして、「より多くの医師が、個々の仕事、生活の多様性を尊重しつつ、腎臓学への取り組みを通じて男女共同で支える豊かな医療を推進する」を掲げ、①啓発・広報、②医療・研究・教育の充実、③キャリアを途絶えさせないシステムの構築、④参加しやすい学会運営、⑤相談窓口の開設、をミッションとしています。この活動をうけ、当科では性差を問わずキャリアパスの具体的なイメージを提示しています。

## 当科のキャリアパスにおけるビジョンとアクション

医学部附属病院における医師の卒後教育は、医師としての総合診療技能ならびに腎臓内科医としての腎臓病領域の専門的技能の習得と研鑽からなります。このために、当医局では病棟・外来のほか透析療法室の3部門での研修を教育の柱とし、これに加え附属病院での腎臓内科医としての総合的勤務から構成されています。現在医局員の半数以上を女性医師が占め、女性医師の能力発揮なくして医局活動は運営できないと言っても過言ではない状態となっており、特にライフイベントと専門医教育期間が重複する若手女性医師のキャリア形成支援は喫緊の課題となっています。学会での男女共同参画の活動をうけ、性差の少ないキャリアパスの具体的なイメージを提示しています。

当医局の典型的なキャリアパスを図1に示します。青色が男性医師、赤色が女性医師のキャリアパスです。当科ではバランスのよい腎臓専門医となるため、専門医研修（専門医取得）を行う一方、学術的な素地を身につけるため学位取得を目標に研究を行います。多くの医局員が大学院に入学して研究を行い、学位を取得して卒業後は附属病院あるいは、病棟や透析室でのスタッフとして勤務しています。この流れの他に大学院に進学しなかった医師（多くは女性医師）は、透析室勤務を行いつつ指導医のもと臨床研究を実施し学会発表・論文作成をへて学位を取得しています。医局員のほとんどが専門医も取得し、学位取得で培った研究力を基礎あるいは臨床研究の領域で継続して発揮し、学会で発表や学術論文への論文投稿を行っています。

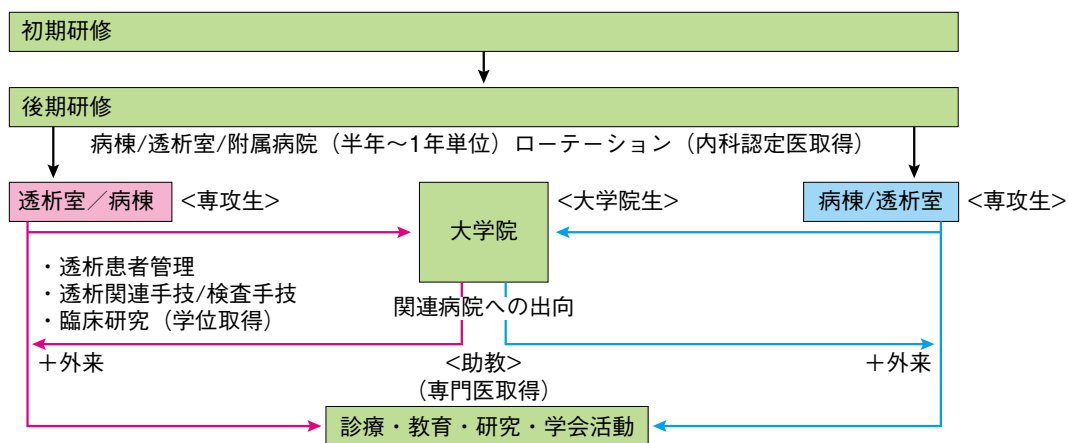


図1 キャリアパス—順天堂大学腎臓内科—

## キャリアパスにおける透析療法領域の意義

透析療法室には、30床のベッドがあり約70名の維持血液透析患者と20名程度の腹膜透析患者に加え、診療科を問わず血液透析を必要とする20～30名程度の入院患者の透析管理を常時行っています。また当院では、維持透析に必要なバスキュラーアクセスの作成ならびにトラブル時のインターベンション、腹膜透析カテーテルの挿入や抜去も腎臓内科が行っており、二次性副甲状腺機能亢進症に対する表在エコーも実施しています。これら透析療法室の運営には、6名の臨床工学技士と13名の看護師に加え7～8名の透析室専任医師（うち4名は常勤医師）がかかわっており、専任医師の半数以上が女性医師となっています（図2）。特に、出産後で病棟を担当するには時間的に困難な若手の女性医師にとっては、勤務のスケジュールが明確でチーム診療体制も整っているだけでなく、症例数も多く臨床研究の実施しやすい環境であることから学位・専門医取得も望める職場として受け止められています。



図2

## 当科での女性腎臓医のキャリアパスにおける透析療法領域の関わり

透析・腎不全領域の女性医師のキャリアプランは図3に示すように、透析患者の全身管理の診療の中から、①専門医や学位を取得する意識で学術的な視点で診療を行う、②clinical questionを臨床研究に発展させる、③専門性のある技能を身につけるなどを骨子として、これらをライフ・ワークバランスのなかで病棟や外来、実験室、時に他施設など様々な場で、自らのキャリアを高めることを第1ステップとしています。これらを一通り終えたスタッフから順次新たな指導者として後輩を指導することで、「特性を持った腎臓内科（女）医」として教室員としてのみならず学会の中で活躍できる人材になりうるとする考えのもと、時間的制約の少なく、専門性の高い透析療法での勤務を軸とした女性医師のキャリアパスがあります。現在、メンターとなる女性リーダーも成長し、入局後間もない女性医師の先生方の出産・育児といったライフイベントに際して公私にわたるサポーターとなっています。

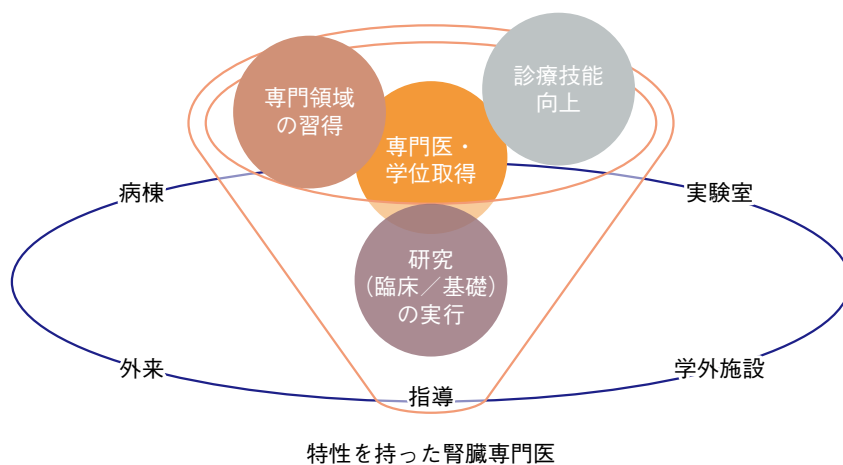


図3 透析室勤務をベースとした女性医師のキャリア形成

濱田千江子

(順天堂大学医学部腎臓内科)